



完成了のプールで初泳ぎ

内子小学校で落成記念行事

老朽化により昨年9月から新築を行っていた内子小学校プールが完成し5月23日、落成記念行事が行われました。式典では、児童が「新しいプールで上手に泳げるようになりたい」と思いを発表。その後、元オリンピック選手の藤本隆宏さんを迎えて水泳教室が行われ、児童は新しいプールで指導を受けました。

◀肌寒い天候にもかかわらず、元気に泳ぐ児童たち



自分でできる防災用品作り

内子町日赤奉仕団が学習会

内子町日赤奉仕団（竹田正子委員長）は6月1日、災害に備えて「今、私たちができること」をテーマに学習会を開きました。新聞紙やナイロン袋など、身近にある材料を使って、数分で作れる簡易トイレと防空頭巾の作り方を学習。参加者は「困ったときに頼りになるのは知恵」と話していました。

◀真剣な表情で作り方を学ぶ参加者たち



小田深山をもっと知ろう

小田高校生が自然観察

小田高校（畠野智司校長）は今年度、小田深山の自然や地域の伝統文化について理解を深める活動に取り組んでいます。その1回目の活動として6月9日、2年生19人が小田深山の自然観察を行いました。生徒たちは松山東雲短期大学の松井宏光教授の説明を聞きながら、渓谷を散策し、自然の豊かさを再発見していました。

◀水がきれいな渓谷にすむ生物や植物などを観察



琉球織物の歴史に学ぶ

気軽に文化講座in内子

「気軽に文化講座in内子」（内子町教育委員会、愛媛大学法文学部他主催）23年度第1回講座が6月17日、内子自治センターで開かれました。井口梓同学部准教授が、伝統的な織物「読谷山花織」を受け継ぐ沖縄県読谷村のまちづくりを事例に、技術の継承を通じた世代間の絆づくりや産業活性化の取り組みなどを紹介しました。

◀同講座は毎月1回、考古学や文学、心理学など多様なテーマで開講

大勢の観客の前で自慢の芸を熱演

内子町文化協会芸能発表会

内子町文化協会内子支部（谷野文子支部長）は5月15日、内子座で合同芸能発表会を開きました。谷野支部長は「楽しんで芸を披露してほしい」とあいさつ。18団体・約140人が出演し、歴史ある内子座の舞台で、カラオケ・舞踊・三味線・琴・落語・合唱など、さまざまな芸を披露しました。また、会場には義援金募金箱が設置され、東日本大震災で被害を受けた地域への支援を呼び掛けていました。

同五十崎支部（稻月功支部長）は同月22日、内子町共生館で芸能発表会を開きました。稻月支部長が「東日本大震災からの復興への祈りを込めて、精一杯演技してほしい」とあいさつ。14団体・約200人が出演し、ダンス・詩吟・舞踊・琴・三味線などが披露されたほか、和太鼓や吹奏楽の演奏もあり、迫力のある音を響かせて会場を盛り上げていました。

両発表会には、幼児から高齢者まで幅広い世代が出演。この日のために練習してきた自慢の芸を発表しました。会場には、出演者の晴れ舞台を一目見ようと家族や友人など大勢の観客が集まり、演技が終わるたびに大きな拍手が送られていました。



①内子婦人会かしの木大正琴（内子支部） ②ウインドアンドサンブルカイツ（五十崎支部）

わくわく体験を楽しもう

内子町子どもフェスティバル

「子どもたちの元気が内子町の元気」をテーマに、第12回内子町子どもフェスティバル（同実行委員会主催）が5月21日、内子運動公園総合グラウンドで開かれました。当日は時折小雨が降るあいにくの天気でしたが、会場には親子連れなど約1,500人が集まりました。

同フェスティバルは、子どもたちの健全育成を目的に自治センターや児童館、保育園、幼稚園などが実行委員会を組織し、毎年開いているもの。ゲームや遊びを通してたくさんの人と出会い、さまざまなことを体験してほしいと、警察や消防をはじめ、学校、企業など各種団体にも協力を呼びかけています。今年は町内外から41団体・約280人が参加しました。

子どもたちはパトカーや救急車、建設機械などの乗車体験、移動動物園でのウサギやポニーとの触れ合い、趣向を凝らした手作りゲームなど、普段はなかなかできない体験を楽しんでいました。



①パトカーの運転席に座ったよ ②野村高校から移動動物園がやって来た ③愛媛マンダリンパイレーツも協力団体として初参加